

## 芦別市議会、市内小中学生との懇談会を開催

11月25日、市議会本会議場にて市議会懇談会「児童・生徒の声を市議会へ」が開催されました。

これは、芦別市が抱える教育環境の課題などについて、市内小中学生の生の声を教育行政に反映させ、今後の教育の推進を目的に芦別市議会が主催したもので、今回が初の試み

となります。

懇談会には市内4校より代表3人ずつ、12人の小中学生が集まり、「芦別のまちについて」「小学校、中学校での学校生活について」「高校進学について」の3点をテーマにした懇談が行われ、児童や生徒から市議会に率直な意見が述べられました。



## 遊びの広場で寸劇を通し児童虐待について学ぶ



児童虐待防止推進月間イベントが11月25日、子どもセンターつばさで開催され、母親と幼児6組13人が児童虐待について学びました。

家庭児童相談室と芦別警察署とのコラボレーションによる寸劇などが行われ、虐待を疑うポイントや虐待を疑う場面に遭遇した場合などに

いて解説、特に「心理的虐待」が最も多く、市内でも数件の報告が寄せられているとのことです。

近所で、子どもへの虐待が疑われる場合にはためらわずに警察や市の児童課、児童相談所虐待対応ダイヤル189番などへ連絡してほしいと訴えていました。

## 3歳児健診で新検査機器の導入により視覚異常を早期発見

市は、弱視の危険因子を早期に発見でき、適切な治療につなげていくため、3歳児健康診査時に近視や遠視、乱視、斜視などを判定できる視覚検査機器「スポットビジョンスクリーナー（ウエルチ・アレン社製）」を導入しました。

同スクリーナーは1メートル離れ

た距離から同機器を両目で見るだけで異常の有無を判定できるものです。

子どもの視力が発達する時期は3歳から5歳がピークと言われているため、同スクリーナーを導入することにより、危険因子を早期発見し、適切な治療につなげることができま



## まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催



12月2日、第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議が、総合福祉センターで開催されました。

代表委員11人が、第1期の検討結果をもとに2期目の取り組みについて協議が行われました。

現行の人口ビジョンで掲げた目標人口の達成に向け、第2期総合戦略

では①安定した雇用の創出、新規学卒者の雇用やU・Iターン促進のため「ふるさと就職奨励金制度の見直し」②新しい人の流れをつくる、自然環境や地域特性を生かした移住・定住の推進のため「持ち家取得奨励金制度の見直し」などの見直し案について協議されました。